

2  
サムエル記  
聖徒伝 80

# 「主の言葉を 地に落とすな」

I サムエル記2章11節～4章 エリの不義 サムエルの召命

# アウトライン

- 0. イン트로ダクション
- I. エリの子らの不義 2章11～36節
- II. サムエルの召命 3章
- III. イスラエルを去った神の栄光 4章
- IV. まとめと適用  
主に聴き、自分に向き合おう



サンドイッチ構造!?

不信仰者と信仰者の  
対照がポイント

【無垢の時代】  
天地創造

【良心の時代】  
墮罪  
~大洪水

【人類統治の時代】  
バベルの塔事件

【約束の時代】  
アブラハム  
~ヤコブ

【律法の時代】  
イスラエル  
王国時代  
メシア初臨

【恵みの時代】  
聖霊降臨  
世界宣教  
メシア再臨

【御国の時代】  
千年王国  
大審判  
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

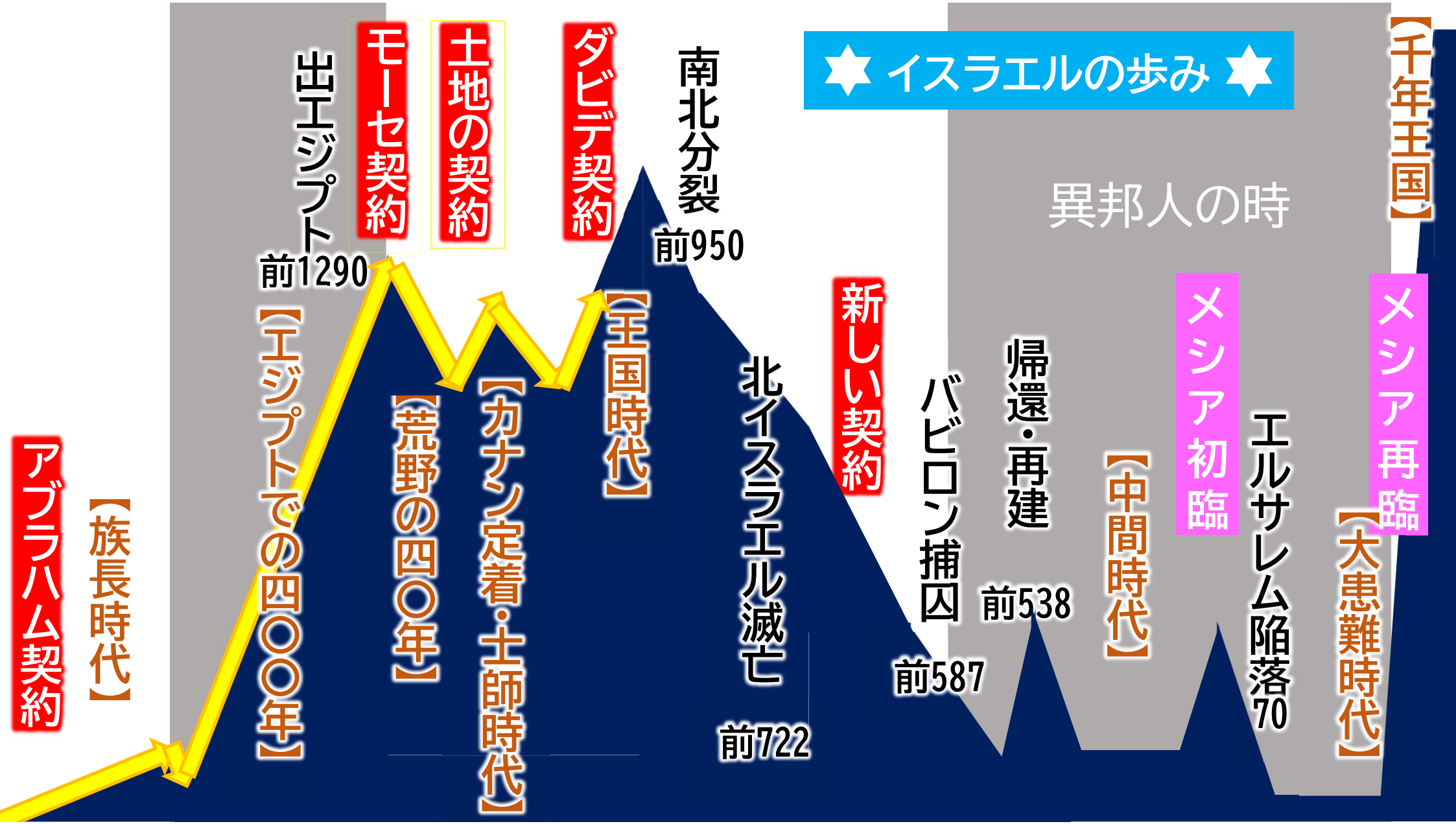
神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

エジプト

前1290

【エジプトでの四〇〇年】

モーセ契約

土地の契約

ダビデ契約

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡

前722

新しい契約

バビロン捕囚

前587

帰還・再建

前538

【中間時代】

エルサレム陥落

70

メシア初臨

【大患難時代】

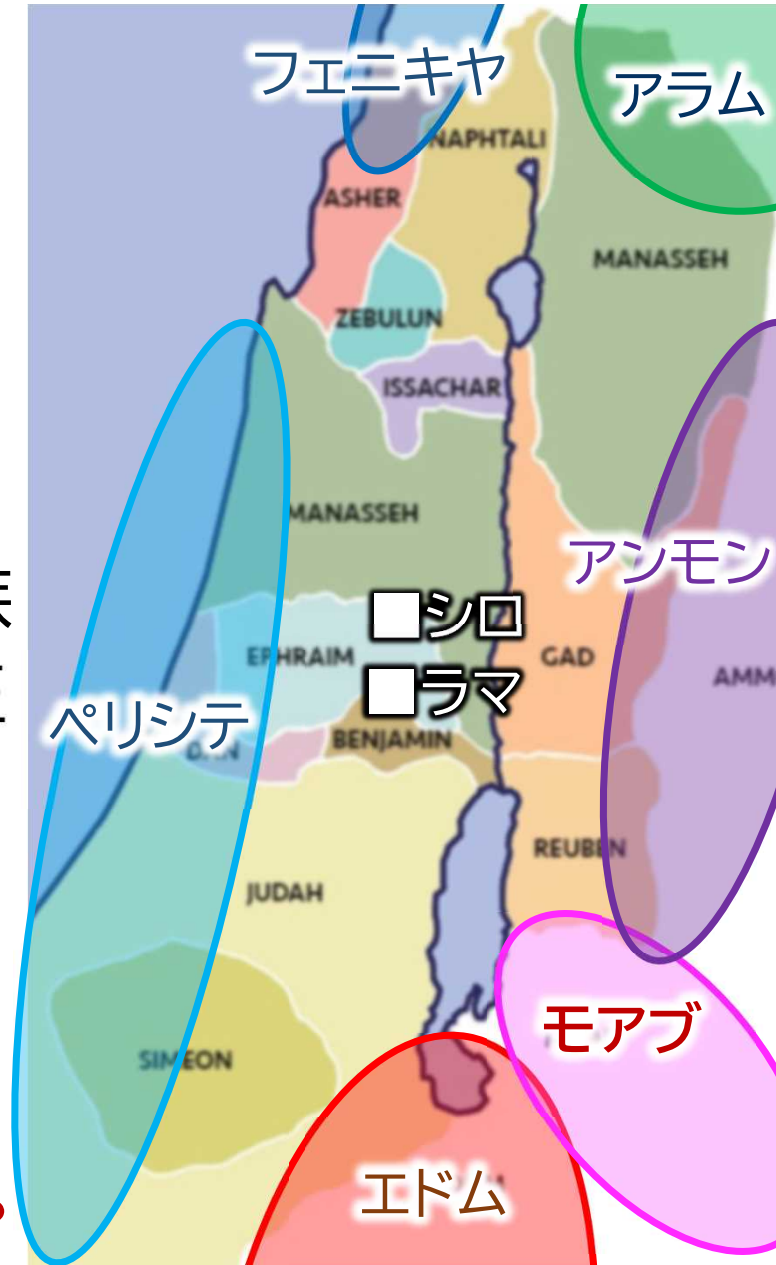
メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

## 【最後の士師サムエル】

- 約束の地で相続地を手に入れたイスラエル。しかし、未征服の地も多く残り、カナン人の偶像礼拝が、たびたび悪影響をもたらした。
- 混沌の時代に主を立てた士師たちは、一部族のリーダーに過ぎず、全イスラエルを治める王は、まだいなかった。
- ついに誕生するイスラエルの王。その準備をしたのが、最後の士師とも言われるサムエル。  
➔サムエルが治めたのはイスラエルの核心部。



## 【サムエルのプロフィール】

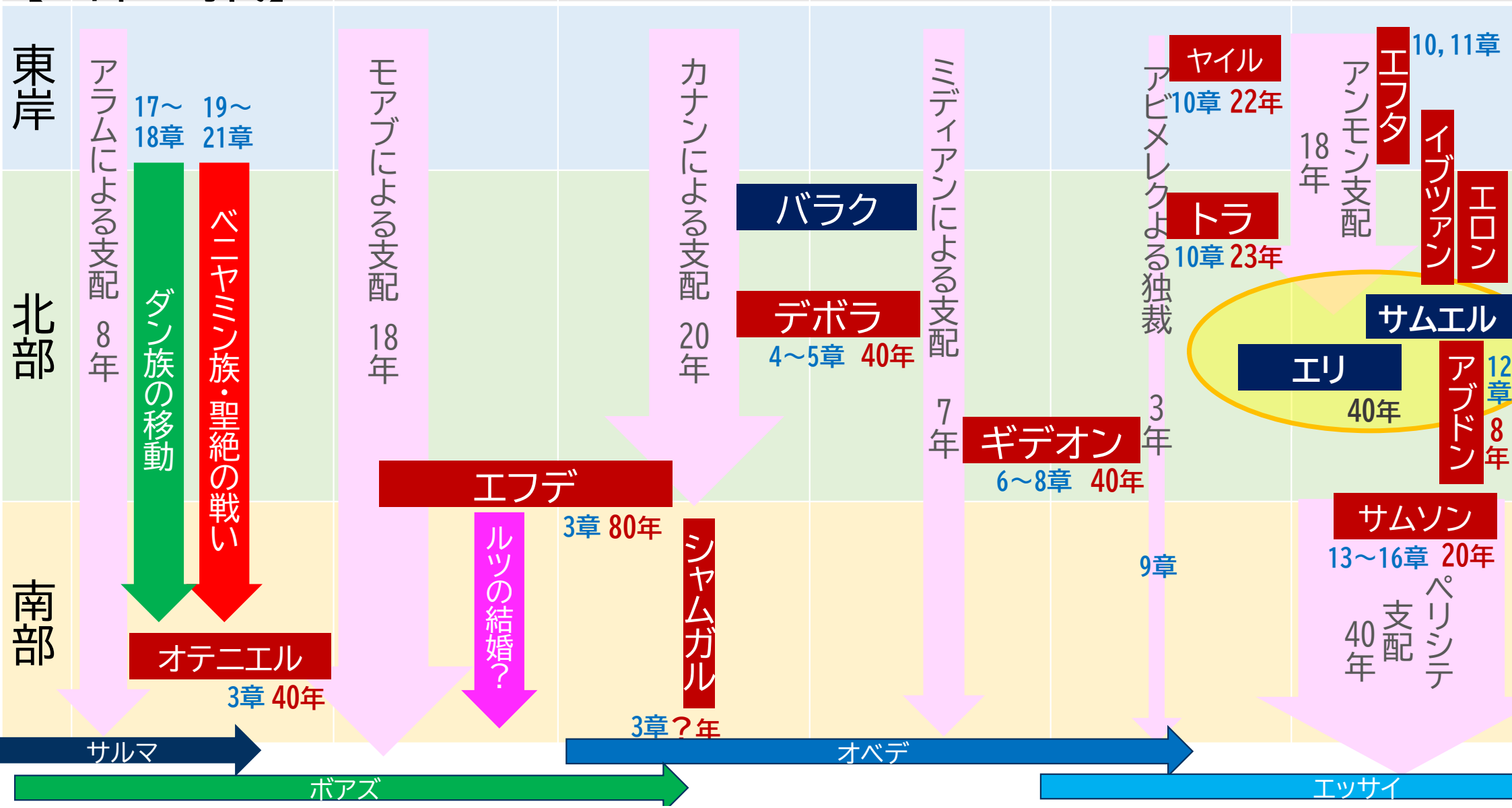
- レビ人ケハテ族 …幕屋の祭具(契約の箱)を運搬。  
➔幕屋の奉仕者であって、祭司の一族ではない。
- この時代には**予見者**と呼ばれた。  
最後の**士師**。**預言者**。
- 士師時代と王国時代をつなぎ、  
イスラエルに王が誕生する前の**道ぞなえ**をした。
- 最初の王サウル。真の王**ダビデ**に油を注いだ。



# 【士師の時代】

BC1200

BC1100



サムエル記 第一

士師時代

サムエル	1:1~2:11	サムエルの誕生
サムエル	2:12~3:21	サムエルの召命
サムエル	4:1~7:17	奪われた契約の箱
サムエル	8:1~9:27	後継者不在 王を求める民

王政時代

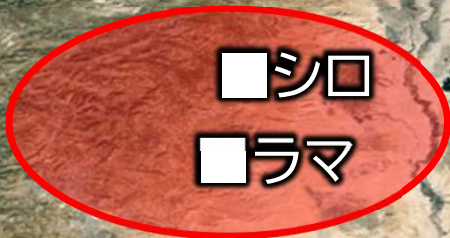
サウル	10:11~11:15	油注ぎ
サウル	12:1~25	士師サムエルの民への告別
サウル	13:1~15:35	王が重ねた神への背き
ダビデ	16:1~13	油注ぎ
ダビデ	16:14~23	王宮での奉仕
ダビデ	17:1~58	ゴリヤテとの戦い
ダビデ	18:1~30	サウルの娘ミカルとの結婚
ダビデ	19:1~26:25	荒野の逃亡の日々
ダビデ	27:1~30:31	ペリシテ人の地で
ダビデ	31:1~13	サウルの死







ペリシテ



■シロ

■ラマ

■エルサレム



士師サムエルの活動範囲



I. エリの子らの不義

I サムエル記2章11～36節

幕屋が張られていたシロ

## 【仕える者と背く者】 I サムエル2:11~14

エルカナはラマにある自分の家に帰った。幼子は、祭司エリのもとで【主】に仕えていた。

さて、エリの息子たちはよこしまな者たちで、【主】を知らなかった。\* 民に関わる祭司の定めについてもそうであった。だれかが、いけにえを献げていると、まだ肉を煮ている間に\*、祭司の子弟が三又の肉刺しを手にしてやって来て、これを大鍋や、釜、大釜、鍋に突き入れ、肉刺しで取り上げたものをみな、祭司が自分のものとして取っていた。このようなことが、シロで、そこに来るイスラエルのすべての人に対してなされていた。

\* 神との霊的交わりがない。 ➡ 主を信じていない!!

\* 血を完全に絶つため。 ➡ 現在もコシエルとして実施。



サムエルと  
エリの子らの  
対比がポイント

## 【エルカナとハンナへの祝福】 I サムエル2:18～21

さてサムエルは、亜麻布の工ポデを身にまとった幼いしもべとして、【主】の前に仕えていた。彼の母は彼のために小さな上着を作り、毎年、夫とともに年ごとのいけにえを献げに上って行くとき、それを持って行った。

エリは、エルカナとその妻を祝福して、「【主】にゆだねられた子の代わりとして、【主】が、この妻によって、あなたに子孫を与えてくださいますように」と言い、彼らは自分の住まいに帰るのであった。【主】はハンナを顧み、彼女は身ごもって、三人の息子と二人の娘を産んだ。少年サムエルは【主】のみもとで成長した。

サムエルは主に仕え、成長し、主は両親を祝福した



## 【エリの息子らの大罪】 I サムエル2:22~23

さて、エリはたいへん年をとっていた\*が、息子たちがイスラエル全体に行っていることの一部始終を、それに彼らが会見の天幕の入り口で仕えている女たちと寝ている\*ことを聞いていた。それでエリは彼らに言った。「なぜ、おまえたちはそんなことをするのか。私はこの民の皆から、おまえたちのした悪いことについて聞いているのだ。」

\*エリはそれまで何をしてた？

\*天幕の奉仕に女性がいる時点で変。

➡バアル礼拝者の神殿娼婦の影響？

父として、祭司として  
息子たちを戒められる  
時を逃してしまったエリ



## 【エリの息子らの大罪】 I サムエル2:24~26

息子たちよ、そういうことをしてはいけない。私は【主】の民が言いふらしているうわさを聞くが、それは良いものではない。**\*人が人に対して罪を犯すなら、神がその仲裁をしてくださる。だが、【主】に対して人が罪を犯すなら、だれがその人のために仲裁に立つだろうか。\***」

しかし、彼らは父の言うことを聞こうとしなかった。彼らを殺すことが【主】のみこころだった**\*から**である。

一方、少年サムエルは、【主】にも人にもいつくしまれ、ますます成長した。

**\*「悪い」と直接言えないエリ。**

**\*主を拒んだら、救ってくれる方はもういない。**

**\*拒み続けて、心が頑なに。裁き確定。**



対照的なサムエル  
神と人を愛したゆえ!

## 【主による祭司の一族の選び】 I サムエル2:27~28

神の人(預言者)がエリのところに来て、彼に言った。

「【主】はこう言われる。あなたの父の家がエジプトでファラオの家に属していたとき、わたしは彼らに自分を明らかに現したではないか。

わたしは、イスラエルの全部族からその家を選んでわたしの祭司とし、わたしの祭壇に上って香をたき、わたしの前でエポデを着るようにした。こうして、イスラエルの子らの食物のささげ物をすべて、あなたの父の家に与えた。

■主がレビ人から祭司を選び、祝福し、用いられた。

神の選びは一方的な恵み



## 【足蹴にされた神へのささげ物】 I サムエル2:29

なぜあなたがたは、わたしが命じたわたしへのいけにえ、わたしへのささげ物を、わたしの住まいで足蹴にするのか。なぜあなたは、わたしよりも自分の息子たちを重んじて、わたしの民イスラエルのすべてのささげ物のうちの、最上の部分で自分たちを肥やそうとするのか。

■ 不信仰の息子たちを放置していたエリは、自分の息子たちを重んじ、神を軽んじていた。

■ ささげ物が、残り物や余り物になっていないか？

大事なものは神か人か  
どちらか一つ





## 【エリと子孫への裁き】 I サムエル2:30~31

それゆえ——イスラエルの神、【主】のことば——あなたの家と、あなたの父の家は、永遠にわたしの前に歩むとわたしは確かに言ったものの、今や——【主】のことば——それは絶対にあり得ない。わたしを重んじる者をわたしは重んじ、わたしを蔑む者は軽んじられるからだ。

見よ、その時代が来る。そのとき、わたしはあなたの腕と、あなたの父の家の腕を切り落とす。あなたの家には年長者がいなくなる。イスラエルが幸せにされるどんなときにも、あなたはわたしの住まいの衰退を見るようになる。あなたの家には、いつまでも、年長者がいらない。

- エリと子孫の名は、祭司の系図から断たれた (I 歴6章)。
  - ➔ 孫エブヤタルがソロモン王に追放された (I 列2:27)。



## 【子孫にのしかかる苦難】 I サムエル2:33~34

わたしは、あなたのために、わたしの祭壇から**一人の人**を断ち切らないでおく。そのことはあなたの目を衰えさせ、あなたのたましいをやつれさせる。あなたの家に生まれてくる者はみな、人の手によって死ぬ。

あなたの二人の息子、ホフニとピネハスの身に降りかかることが、あなたへのしるしである。二人とも同じ日に死ぬ。

■ 息子ピネハスの死後、イ・カポデが生まれる。

➡ かるうじてつながる子孫たちを待ち受ける苦難。



## 【忠実な祭司の系譜】 I サムエル2:35～36

わたしは、わたしの心と思いの中で事を行う**忠実な祭司**を、わたしのために起こし、彼のために確かな家を建てよう。彼は、わたしに油注がれた者の前をいつまでも歩む。

あなたの家の生き残った者はみな、銀貨一枚とパン一つを求めて彼のところに来てひれ伏し、『どうか、祭司の務めの一つでも私にあてがって、パンを一切れ食べさせてください』と言う。」

■アロン → イタマル… → エリ … → アビヤタル(ソロモンが追放！)

    → エルアザル… → ツアドク(ダビデ～ソロモン時代)

■エリの系譜は断たれ、ツアドクの子孫が、正統な祭司の系譜に!!



## Ⅱ. サムエルの召命

## I サムエル記3章

幕屋のあったシロ

## 【消えゆく灯・残った光】 I サムエル3:1~3

さて、少年サムエルはエリのもとで【主】に仕えていた。そのころ、【主】のことばはまれにしかなく、幻も示されなかった。\* その日、エリは自分のところで寝ていた。彼の目はかすんできて、見えなくなっていた。\*

神のともしびが消される前\*であり、サムエルは、神の箱が置かれている【主】の神殿\*で寝ていた。

\* 預言や幻が最も多かったのは、預言者の時代。

➡南北時代に書かれた？ ➡\*神殿の時代！

\*「まだ消えていない」

➡イスラエルの残された者が、サムエル。



消えゆくエリ  
用いられるサムエル

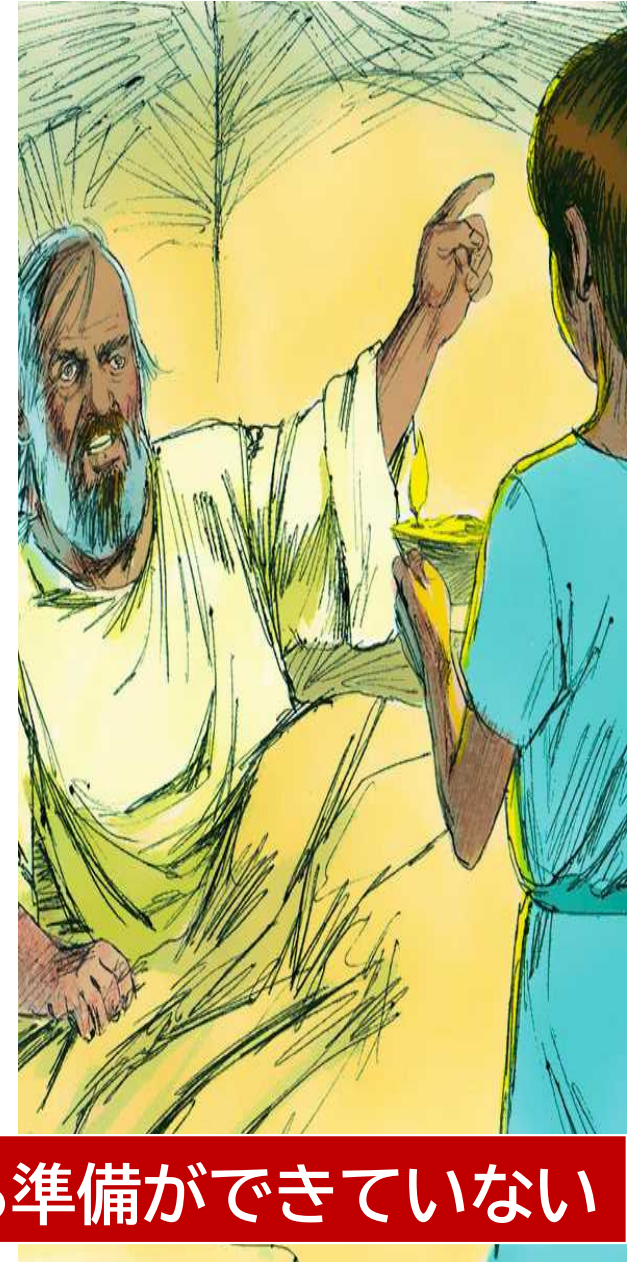
## 【呼び出されたサムエル】 I サムエル3:4~5

【主】はサムエルを呼ばれた。彼は、「はい、ここにおります」と言っ、エリのところに走って行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは「呼んでいない。帰って、寝なさい」と言った。それでサムエルは戻って寝た。

【主】はもう一度、サムエルを呼ばれた。サムエルは起きて、エリのところに行き、「はい、ここにおります。お呼びになりましたので」と言った。エリは「呼んでいない。わが子よ。帰って、寝なさい」と言った。

サムエルは、まだ【主】を知らなかった。まだ【主】のことばは彼に示されていなかった。

受け入れる準備ができていない



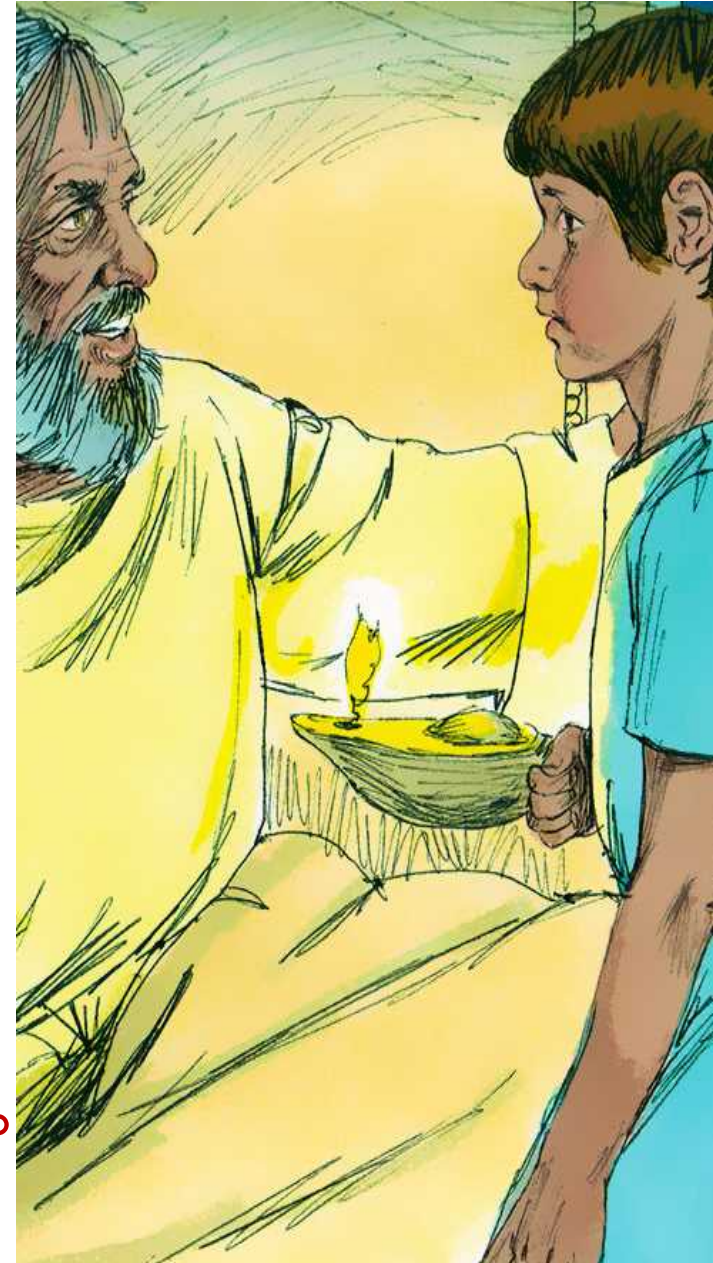
## 【三度目の呼びかけ】 I サムエル3:8~9

【主】は三度目にサムエルを呼ばれた。彼は起きて、エリのところに行き、「はい、ここにあります。お呼びになりましたので」と言った。エリは、【主】が少年を呼んでおられるということを悟った。\*

それで、エリはサムエルに言った。「行って、寝なさい。主がおまえを呼ばれたら、『【主】よ、お話しください。しもべは聞いております\*』と言いなさい。」サムエルは行って、自分のところで寝た。

\*エリは、主がサムエルを選んだと知っただろう。

\*自分自身の召命を思い返したのだろうか。



## 【三度目の呼びかけ】 I サムエル3:10

【主】が来て、そばに立ち\*、これまでと同じように、「サムエル、サムエル\*」と呼ばれた。サムエルは「お話しください。しもべは聞いております\*」と言った。

\*アブラハム、ヤコブ、モーセに対してされたように  
主は、そばにたって語りかけてくださる。

\*二度呼ばれるのは、主の親愛の強い表現。

\*今回は、サムエルに答える準備ができていた。

■心と体を整えて、受け取る準備ができているか？  
備えがなければ、語りかけられてもわからない。



まず主に聴こう



## 【エリの家への裁きの宣告】 I サムエル3:11～13

【主】はサムエルに言われた。

「見よ、わたしはイスラエルに一つのことをしようとしている。だれでもそれを聞く者は、両耳が鳴る。

その日わたしは、エリの家についてわたしが語ったことすべてを、初めから終わりまでエリに実行する。

わたしは、彼の家を永遠にさばく\*と彼に告げる。それは息子たちが自らにのろいを招くようなことをしているのを知りながら、思いとどまらせなかった咎\*のためだ。」

\*ゆるされない罪 ➡ 集団に対する世における裁き

\*知っていて実行しなかった ➡ 神の裁きの基準

個人には救いの道が！  
ラバブヤルツのように



## 【神の宣告】 I サムエル3:14~15

だから、わたしはエリの家について誓う。エリの家  
の咎は、いけにえによっても、穀物のささげ物によつ  
ても、永遠に赦されることはない。」

サムエルは朝まで寝て、それから【主】の家の扉を開  
けた。サムエルは、この黙示\*のことをエリに知らせる  
のを恐れた。

\*ゆるされない罪 ➡ 集団に対する世における裁き

■ どんな国家、民族、系譜でも、個々人には常に  
救いの道が開かれている。➡ ラハブ、ルツ…。

\* 黙示(マラ) ➡ 幻、鏡。エゼキエル、ダニエルに4回。



## 【エリの覚悟】 I サムエル3:16~18

エリはサムエルを呼んで言った。「わが子サムエルよ。」サムエルは「はい、ここにおります」と言った。

エリは言った。「主がおまえに語られたことばは、何だったのか。私に隠さないでくれ。もし、主がおまえに語られたことばの一つでも私に隠すなら、神がおまえを幾重にも罰せられるように。」

サムエルは、すべてのことをエリに知らせて、何も隠さなかった。エリは言った。「その方は【主】だ。主が御目にかなうことをなさるように。」

■覚悟して、主の宣告を待っていたエリ。



## 【士師サムエル】 I サムエル3:19～21

サムエルは成長した。【主】は彼とともにおられ、彼のことは一つも地に落とすことはなかった。\*

全イスラエルは、ダンからベエル・シェバに至るまで、サムエルが【主】の預言者として堅く立てられたことを知った。

【主】は再びシロで現れた。【主】はシロで【主】のこことばによって、サムエルにご自分を現されたのである。

\*サムエルが、神の言葉を聞き逃さなかったゆえに。

■サムエルが士師、預言者として用いられていった。





### Ⅲ. イスラエルを去った神の栄光

I サムエル記4章

エフライムの山地

## 【ペリシテ人との戦い】 I サムエル4:1~2

サムエルのことばが全イスラエルに行き渡ったころ

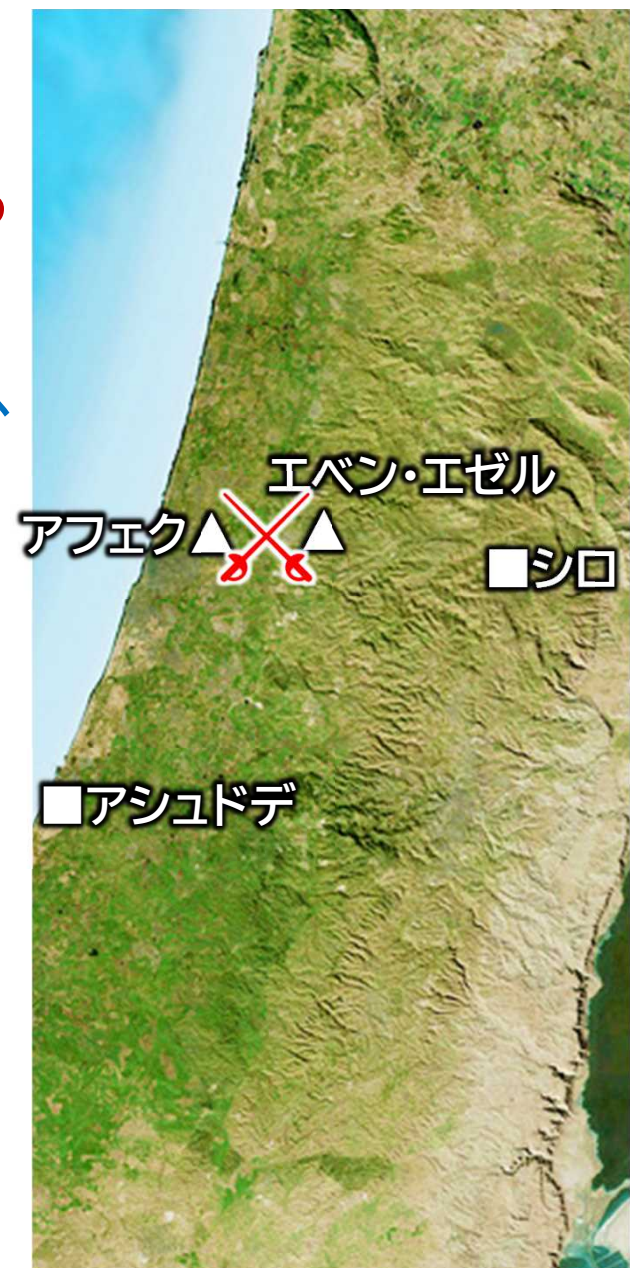
\*、イスラエルはペリシテ人に対する戦いのために出で行き、エベン・エゼルのあたりに陣を敷いた。一方、ペリシテ人はアフエクに陣を敷いた。

ペリシテ人はイスラエルを迎え撃つ陣備えをした。戦いが広がると、イスラエルはペリシテ人に打ち負かされ、約四千人が野の戦場で打ち殺された。

\* 神の宣告は、エリ自身によって告げられた？

➡ それでも息子たちは悔い改めなかった。

■ 祭司の不信仰は、イスラエルの不信仰の表出。



## 【不信仰者の愚かさ】 I サムエル4:3~5

兵が陣営に戻って来たとき、イスラエルの長老たちは言った。「どうして【主】は、今日、ペリシテ人の前でわれわれを打たれたのだろうか。シロから【主】の契約の箱をわれわれのところに持って来よう。そうすれば、その箱がわれわれの間に来て、われわれを敵の手から救うだろう。」

兵たちはシロに人を送り、そこから、ケルビムに座しておられる万軍の【主】の契約の箱を担いで来させた。そこに、神の契約の箱とともに、エリの二人の息子、ホフニとピネハスがいた。

【主】の契約の箱が陣営に来たとき、全イスラエルは大歓声をあげた。それで地はどよめいた。



## 【奮い立ったペリシテ人】 I サムエル4:6~9

ペリシテ人はその歓声を聞いて、「ヘブル人の陣営の、あの  
大歓声は何だろう」と言った。そして【主】の箱が陣営に来た  
と知ったとき、ペリシテ人は恐れて、「神が陣営に来た」と  
言った。そして言った。

「ああ、困ったことだ。今までに、こんなことはなかった。

ああ、困ったことだ。だれがこの力ある神々の手から、わ  
れわれを救い出してくれるだろうか。これは、荒野で、あり  
とあらゆる災害をもってエジプトを打った神々だ。

さあ、ペリシテ人よ。奮い立て。男らしくふるまえ。そうでな  
いと、ヘブル人がおまえたちに仕えたように、おまえたちが  
ヘブル人に仕えるようになる。男らしくふるまって戦え。」





## 【最悪の結果】 I サムエル4:10~12

こうしてペリシテ人は戦った。イスラエルは打ち負かされ、それぞれ自分たちの天幕に逃げ、非常に大きな打撃となった。イスラエルの歩兵三万人が倒れた。

**神の箱は奪われ**、エリの二人の息子、**ホフニ\***と**ピネハス\***は死んだ。

一人のベニヤミン人が戦場から走って来て、その日シロに着いた。衣は裂け、頭には土をかぶっていた。

\*ホフニ …拳闘。拳で戦う者。

\*ピネハス …青銅の口。青銅は、しばしば裁きを示す。

■ホフニとピネハスは、その拳で主に逆らい、主をその口で欺き、悔い改めを拒み、心頑なにされ、裁かれた。



最悪は、神の箱が奪われたこと

## 【戦場からの知らせ】 Iサムエル4:13~16

彼が着いたとき、エリはちょうど、道のそばの椅子に座って見張っていた。神の箱のことを気遣っていたからであった。この男が町に入ってきて来て報告すると、町中こぞって泣き叫んだ。

エリがこの泣き叫ぶ声を聞いて、「この騒々しい声は何だ」と言うと、男は大急ぎでやって来てエリに知らせた。

エリは九十八歳で、その目はこわばり、何も見えなくなっていた。

男はエリに言った。「私は戦場から来た者です。私は、今日、戦場から逃げて来ました。」するとエリは「わが子よ、状況はどうなっているのか」と言った。



距離30km、  
標高差500m

## 【エリの死】 I サムエル4:17~18

知らせを持って来た者は答えて言った。「イスラエルはペリシテ人の前から逃げ、兵のうちに打ち殺された者が多く出ました。それに、あなたの二人のご子息、ホフニとピネハスも死に、**神の箱は奪われました。**」

彼が**神の箱**のことを告げたとき、エリはその椅子から門のそばにあおむけに倒れ\*、首を折って死んだ。年寄りで、からだが重かったからである。エリは四十年間、イスラエルをさばいた。

■最大の衝撃は、神の箱が奪われたこと!!

\*あおむけに倒れ ➡神の裁きを示す



## 【神の箱は奪われた】 I サムエル4:19～22

彼の嫁、ピネハスの妻は身ごもっていて出産間近であったが、神の箱が奪われて、しゅうとと夫が死んだという知らせを聞いたとき、陣痛が起こり、身をかがめて子を産んだ。

彼女は死にかけていて、彼女の世話をしていた女たちが「恐れることはありません。男の子が生まれましたから」と言ったが、彼女は答えもせず、気にも留めなかった。

彼女は、「**栄光がイスラエルから去った**」と言って、その子を**イ・カボデ**(**栄光がない**)と名づけた。これは、神の箱が奪われたこと、また、しゅうとと夫のことを指したのであった。

彼女は言った。「**栄光はイスラエルから去った。神の箱が奪われたから。**」



## 【栄光がイスラエルを去ったとは？】

- アダムの子によって地上を去った**神の栄光**が、再び地上に宿られたのが、幕屋の契約の箱。
- **神の栄光**は、エジプトから解放されたイスラエルの荒野の旅を導き、約束の地に導き入れた。
- イスラエルの中心には常に**神の栄光**があった。
- **神の栄光**なきイスラエルは、イスラエルではない。
  - ➡ 身内の死より、はるか以上の衝撃が、イスラエル全土を打ちのめした出来事だった。





## IV. まとめと適用 主に聴き、自分に向き合おう

エフライムの山地

## 【ささげ物の原則を確認しよう】

- 動物の犠牲は、罪の贖いのために主が教えられたこと。  
ささげ物を贖いとして、人の罪は一時的にせよゆるされた。
- ささげ物を強奪したエリの子らは、主の贖いを蔑み、拒んだ。  
彼らの裁きは当然の結果。対峙しなかったエリの責任も重い。
- 今の時代の最大の罪は、主イエスの十字架の贖いを拒むこと。  
この罪を悔い改めない者を待つのは、永遠の滅びの裁き。
- 救いは唯一の神が示された方法によるしかない、信じるしかない。  
主を拒み通した者に、救いはない。この救いの原則を心に刻もう。

## 【サムエルの召命に学ぼう】

■主は二度、サムエルに呼びかけられたが、彼には分からなかった。

■主はいつでも、あらゆる手段を用いて語りかけてくださっている。  
**主の言葉を受け入れる準備はできているのか。**問われる。

■**静まって主に聴く時を持とう。**自分の口もふさいでしまおう。  
長々とお願い事を並べるのが、祈りではない。  
何より大切なことは、**心を静めて、主に心傾けること。**

※何時間「祈った」としても、自分が一方的にしゃべっていただけなら、まったく主の声を聴いていないということ。



## 【突きつけられる、自分自身に向き合うことから始めよう】

- 静まって主に聴けば、自分自身の姿がよく見えてくる。  
自分に向き合えない人が、主の声を聴くことなどできるわけがない。
- 自分の課題から逃げている人は、例外なく、神の前から逃げている。  
自分自身と向き合えない人が、信仰者であるわけがない。
- 流行の癒やしのセミナーにはまる人は、自分から逃げてきた人だ。  
臭い物にフタをして、表面的なきよめだけで生きてきたのだろう。  
主に向き合えば、どうしたって浮き上がるのは、おのれの罪。
- 自分の欠けを正しく理解し、対処できるのが、成熟した信仰者。

## 【自分と家族の問題に向きあおう】

- 最も身近で困難なのは、誰にとっても家族の問題。  
どの家族の中にだって問題はある。当然あるに決まっている。  
罪ある人が、顔を付き合わせて、離れがたく暮らしているのだから。  
➡ 我が家には問題はないと言う人こそ、重大な問題を抱えている。
- 家族の問題を放置することほど、信仰者が危機を招くことはない。  
教会で問題を起こす人は例外なく、放置した家族問題を抱えている。
- エリは、息子たちの重罪を**知りながら、放置した。** ➡これがエリの罪  
とがめはしたが、遅すぎたし、弱すぎた。  
➡親に求められるのは、体を張って子どもに対峙する、その覚悟。

## 【自分と家族の問題に向きあおう】

- 私自身を振り返る。結婚。突然できた娘。ダウン症で生まれた息子。突きつけられたのは、私の未熟さ。私の欠け。
- 否応なく現実に向き合うしかなかった中で、主の助けは差し伸べられた。家族各々が主と出会い、主に従っていくことで、変化は起こされた。
- 聴くことと行動は、聖書では一つ。行動しない人は、聴いてはいない。祈りを逃避の手段にしないこと。なすべき課題は常に目の前にある。
- 向き合い、行動を起こすとき、必ず主の助けは与えられる。愚かな私たちは、性懲りもなく過ちを繰り返すけれど、それでも変えられ、成長させられていく。悔い改め続けていく限り。

**歩み出さないなら、その信仰は嘘だ。主に信頼するなら歩み出せ!!**

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

息子たちの罪を知らながら放置(ほうち)した エリの罪を思います。

サムエルのように、あなたの声を聴(き)く心が そなえられますように。

あなたがあたえられた わたしの課題(かだい)に 向き合う力を  
あたえてください。

自分と家族(かぞく)の 成長(せいちょう)と変化(へんか)を、

御国(みくに)の めぐみの先どりとして、身をもって 味(あじ)わい

知る人生(じんせい)を あゆませてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」